

琵琶湖ヨット倶楽部週報(10-6-16号)

- (1) 六月九日の日曜日は梅雨前の快晴で帆走には絶好の日であった。
快晴 南風、風速最高6米 平均4.5米 12ft ティンカーには全くあつらへ向きの天気であった。
午前十時に集合したものは二十三名、十二呎艇に分乗して(十二呎艇は同志社艇と加へ総勢10艇のfleet) 石山行と実行した。
膳所のgreenlandで中食。兼者のないものも有るものも、有るだけと合けあって楽しい食事をしてゐると田中氏のservice boatが柳ヶ崎から茶を運んで来てくれた。一回元氣数倍石山に入って小唐橋に撃留
石山は最大のポイントレースあり船が、レースに出場の長谷川氏に合す。
- (2) 撃留向落し一艇は橋下通過を企てい水を掬ったか之はクルーのコンビが悪かったためである。幸ひ気温の最良時で入水しても寒いと云ふ7の者がつたのと打撲傷がなかつたのは仕合せである。十二呎の浮力を実験したと思へば更な仕合せである。
- (3) 海軍カッター(神風)は廿八日同志社の諸君が石山から柳ヶ崎まで廻航してくれた。我がfleetに又一威力が加はつた。同志社諸君の方を多謝致します。
- (4) 同志社の諸君や、ヨットレーレの熱心なる新人達と(勿論旧人達も)共に休日毎にかうした楽しい力強い帆走の出来の7を筆者は心から感謝してゐます。故に筆者は感謝の念を以て新人諸君に宛ねする。
“正道ヨットを喜揚し履行してもらいたい” 正道と一言云へば抽象的で判り難いか、具体的に説明は吉本、松本其他の諸君から実況にあつて折に觸れ様々いふんで説明されるであらうか yachtingの真精神と我等の団体真意ととある。
- (5) 六月十六日の日曜日は午前十時には必ず集合の7。各自乗るを保持する7。風向によりて行先未定だがクルージングを試みた。
- (6) 船体困難。十一日警察から現場を突発に来た。吉野は即ち工場運へ廻した。十二日には認可確實となつた。十三日から宇野大工の手で組立にかゝる。晴天続きならば16日には建た器が鬼られた7となつた(此の項大津上田氏よりの電話による) (10-6-11 宮崎)